

事務事業名	花と緑の市支援事業			担当	産業環境部 商工観光課 観光係			
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	83-8135		
施策名	4	観光の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和48 年度～）			
予算科目	1.一般会計	7.商工費	1.商工費	3.観光費「	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	市内造園業者の有志が花と緑の市実行委員会（20業者）を組織して、平成18年度までは、4月29日（みどりの日）に、平成19年度からは、5月4日（みどりの日）に久保講堂南側において、苗木等の無料配布（毎年500本）を実施した。平成20年度からは同年4月に開設した「あぐりっ娘」多目的広場に会場を移動し、庭園を展示した。平成23年は震災の影響により自粛。平成24年度からは、中心市街地活性化のために、木綿会館前の駐車場に会場を移動して開催している。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 補助金交付事務  25年度計画 24年度と同様	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 補助金額	千円	400	360	0	360	360
	イ						
	ウ						
	エ						
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 花と緑の市実行委員会	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 花と緑の市会員数	人	20	20	20	20	20
	イ						
	ウ						
	エ						
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市内外から観光客の誘客を図る。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 花と緑の市に訪れた観光客数	人	2,000	2,000	0	1,500	2,000
	イ						
	ウ						
	エ						
オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 訪れてもらう、観光客の誘客を図る	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 真岡市を訪れた観光客数	人	2,784,799	2,806,703	2,230,492	2,463,570	
	イ						
	ウ						
	エ						
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	400	360	0	360	
	事業費計(A)	千円	400	360	0	360	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	0	2
		延べ業務時間	時間	22	22	0	22
		人件費計(B)	千円	89	94	0	92
トータルコスト(A)+(B)		千円	489	454	0	452	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市内造園業者のPRや緑化推進を図ることを目的に実行委員会を組織して、花と緑の市を開催しているのが昭和48年から支援した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成14年度までは花と緑の市の開催期間を1週間として、各実行委員は庭園の見本等をPRしていたが、平成15年度からは開催日を1日に短縮して、苗木の無料配布に変更した。ゴールデン・ウィークの観光イベントとして定着し、市内外から来客している。また、平成20年度は30回記念事業とし、会場を「あぐりっ娘」に変更し日本庭園の展示を再開すると共に、開催期間も5月3日から6日までの4日間にして実施し来客者も増加した。平成21年度は合併記念として開催した。平成22年度より補助金を10%カットし36万円補助した。平成23年度は震災の影響で自粛。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	短時間で庭園を撤去してしまうのはもったいない。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 花と緑の市を開催することにより、緑化推進を通じて観光振興を図っているため、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 花と緑の市は、観光振興と緑化推進に役立っており、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 花と緑の市の開催によって、緑化推進を通じて観光振興を図っているため、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ゴールデン・ウィークの観光イベントとして定着し、市内外から来客があり、一定の成果が上がっており、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 補助を廃止すると、事業開催が出来なくなり、観光振興に支障をきたす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 花と緑の市開催及び庭園造作の必要最低限の経費であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 補助金交付等に依る、必要最小限の事務であり、削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 実行委員は各事業者から負担金を徴収しており適正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							